

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	サポートセンターわくわく（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和8年2月9日		～	令和8年3月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日		～	令和8年3月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異年齢で関わるができる。	未就学児、就学時ともに、自分でできることは本人にとってのスモールステップの範囲内で行えるようにしている。お願いや相談、交渉する機会を作って、子どもたち同士でどうやったらうまくいくかを考える場面の提供を行なっている。	子どもひとりひとりの障害特性の理解を職員が把握して、スモールステップでの課題の提案や関わりをしたり、安心して課題に取り組める環境づくりに取り組んでいく。
2	子どもたちが楽しみを持って来所している。	子どもたちの気持ちや想いを聴いて、気持ちや想いに寄り添っている。支援の中でメリハリを付けて関わりを持っている。	子どもたちの意見を取り入れながら、集団・個別の活動の充実を図る。 安心して過ごせるように、環境の整備を常に行なっていく。
3	毎日のミーティングの中で支援や業務について、職員間で意見や情報を共有している。	支援や業務の申し送りを行い、職員間で共有している。申し送りノートや職員のグループラインを活用しながら情報漏れがないようにしている。（利用者さんの個人情報に気をつけながら）	職員間で、意見や商法の共有が円滑に行えるように、職員間のコミュニケーションを大切にする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流が少ない。	ハロウィンイベントの時しか交流が行えていない現状。子どもたちの下校時間の関係で、地域の方を招いたりする企画がしづらい。	引き続き、ハロウィンイベントは継続し、関わりを持てる場所を増やして見る。また、子どもたちの下校時間が早い日や、長期休みに、子どもたちと地域の美化活動を始めてみる。
2	環境整備を意識する。	気になっているが声に出せなかったり、環境整備が後回しになっている状況があった。	引き続き、ハロウィンイベントは継続し、関わりを持てる場所を増やして見る。また、子どもたちの下校時間が早い日や、長期休みに、子どもたちと地域の美化活動を始めてみる。
3	保護者間の交流の機会がない。	交流の機会を作りたいと思うが、職員間で具体的な話し合いが持ていない	行事の年間計画を立てて、計画を進めていく。